

私の大きな挑戦

福島県郡山市立郡山第四中学校

三年 松本 憩

私は、小学六年生の頃、ある挑戦をした。それは相撲取りになることだ。

小学生相撲との出会いは、私がまだ小学三年生だった夏休みの最中である。私は両親の実家に帰省していた。すると、母が「お姉ちゃんの友達の前相撲部の子が東北大会に勝ち進んで、今その相撲場で大会やってるんだって。見に行こう。」

と、突然言い出したのだ。正直その時の私は相撲になんて全く興味は無かったから、「面倒くさいな。」なんて思ったりもしていた。

約一時間後、会場に到着した私は「暑いなあ。早く帰りたいな。」と思いながら母の傍らで土をいじったりしていた。すると、どこからか大きな歓声が上がった。不思議に思い、立ち上がって土俵の方を見てみると、一人の女の子が男子と相撲を取っているのが見えた。その頃の私にとって、その光景は何とも衝撃的だった。なぜなら、私の中には「相撲は男子だけが取るもの」という概念しかなかったからだ。私は、自分よりも体が大きい男子にもかかわらず負けじと、堂々と戦う彼女の姿に夢中になった。すると、また二度目の、そして一回目よりもさらに大き

な歓声が上がった。あの女の子は試合に勝ったのだ。土と汗とで汚れた彼女は、なぜか私にはきらきらと輝いているように見えた。いつの間にか私は「相撲って楽しそう。やってみたい。」と思い、そして姉の友達あの女の子の姿に憧れを抱き始めていた。

「相撲をやってみよう。」と思いつつも、やはり体の小さな女の子には難しく、ようやく入部することができたのは六年生になってからだだった。

人生初めての相撲の練習。とはいっても最初から取り組みは難しく、危険なため、まずは基礎からということにスクワットや腹筋、四股をふむ練習から始めた。練習を甘く見ていた私だったが、予想以上に基礎練習は大変でようやく練習が終わった、と思ったら足がガクガクと震えて立つこともできなかった。入部して数週間は筋肉痛が消えることはなかった。そんな辛い練習だったが、先生は優しく指導してくださったし、仲間は女子だからといって私を仲間外れにしたり差別したりすることはなかった。性別、学年関係なくみんなと仲良くなることができ、練習はとても楽しかった。それから、私の仲間は小柄な子が多く、私は身長が高かったから男子と比べると私の方が体格が大きかった。そのため試合では、体格差で私は有利になり男子を投げ飛ばすのも簡単でとても爽快な気分だった。

しかし大会当日、「井の中の蛙大海を知らず。」ということわざがあるが、この意味をよく知ることになる出来事が起きた。事もあろうに、私の二倍近くの体の男子と対戦することになってしまったのだ。そして試合の時間はあつという間にやってきて、私は土俵に上がった。本当に怖かった。あの時の恐怖は、きつといつまでも忘れられないだろう。歯はガチガチとなり、足はガクガクと震えた。

「はっけよいー!」

という声が聞こえたと同時に、私は土俵の外へと弾き出された。しかし、相手は私を気づかってくれたのか、強くはあたってこなかったので幸いケガはなかったのだが、恐怖とショックで試合後の記憶は残っていない。

そんな苦しい思い出もあるが、私は相撲部に入部して本当に良かったと思っている。していなかったら、今頃きつと後悔しているだろう。それから、入部して学んだことも多くある。自分が挑戦したいと思つたことは実行し、それを最後までやりとげる。相手への敬意を忘れない。仲間を大事にする。感謝の気持ちを持たない。そして、今の自分の現状に満足しないで広い視野を持ち、高みを目指し続ける。相撲をしたことで、これらのような学びをたくさん得たのだ。何よりも、他の人にはない経験ができたのが誇りであり、自信にもつながっている。あの時の試合での恐怖を思えば、これからの壁だって越えられる気がする。「井の中の蛙大海を知らず。」あの経験があったからこそ自分は成長できたのだと思う。三年生のあの夏、あの女の子を見ていなかったら、私はこの学びを得ることはなかっただろう。

これからの学びを得ることを忘れず、高みを目指し、何事にも挑戦していける人間に成長していきたい。